

人生ハンド仏句

第44号

H. 17. 11. 1
(毎月1日発行)

えしき お会式のいわれ

住職 谷川寛俊

「一貫三百どうでもいい」とはやし、南無妙法蓮華経とお題目を唱えながらうちわ太鼓を打ち鳴らし万灯行列を繰り出してお会式が行われている映像が、七百年経過した現代でもテレビから流れてきます。

その当時(江戸時代)、職人の手間賃が一貫三百文、現代の金額にすると二〜三万円位だったそうです。

「一貫三百どうでもいい」のはやし言葉からは、それを投げ打つても日蓮大聖人様に報恩の誠を捧げようとする檀信徒や庶民の心意気や、法華氣質が伝わっ

て来るようです。

お会式とは、日蓮大聖人様のご命日に営む報恩の法要のことで、御入滅された十月十三日を中心に全国の日蓮宗寺院で行われています。地方によっては、十一月から十二月にかけて行われていますが、当山は、毎年十一月三日(文化の日)に厳修されています。

「御命講(おみようこう)とも言われ日蓮大聖人をお慕いする檀信徒や庶民によって行われてきた日本に根付いた仏教行事です。

松尾芭蕉が詠んだ油のような酒は、日蓮聖人の好物の一つでもありました。

聖人のお手紙などには「このお酒を飲むと石のように冷えた身体が熱くなり汗が流れて体の垢も洗われ、氷のように冷たい胸の中も温かくなつた」と語られています。

この芭蕉の句は、こうしたお酒にまつわる日蓮大聖人のお心に触れ

編集・発行
玉蓮山 真成寺
編集部
TEL・FAX (0765)22-2268
メールアドレス
kokorochanthk@ybb.ne.jp
ホームページアドレス
<http://www.geocities.jp/sinjoyujitoyama108/>

た人々がお会式に好物だった酒五升を奉納した様子なのでしようか。日蓮大聖人の好物は他にも沢山あり、檀信徒の方々がいろいろな金品、米、餅、こんにゃく、わかめ、衣、馬などを供養されておられます。

お会式の時には、日蓮大聖人様の大恩に報いる志を表して供養の金品、品々をご供養することが大切なのです。

そして、その供養の志の思いをまわりの多くの人々にめぐらし、すべての人々の幸せを願い、行っていくことが日蓮大聖人様の大恩に報いる道でもあるのです。

今年も一人でも多くのご参詣をお待ち申し上げております。



教育は共育
教える人も育てられている